

成人女子体型の特徴を表す要因の抽出と年齢的变化

十文字学園女短大 古松弥生、 関東学院女短大 ○岡田宣子、
大妻女大家政 松山容子、 東横学園女短大 有馬澄子

目的：体幹の形状に関する情報は、型紙設計、ボディー設計、着装など、被服造形上の諸問題を解決する基礎として欠くことが出来ない。しかし体幹は多様な変異を包含する部位なので、その形状を特徴づける要因を明らかにし、さらに具体的な内容を的確に把握する必要がある。そこで本研究では、成人女子の体幹を中心とする部位を対象として、いくつかの考察を試みた。

方法：資料は工業技術院によって1981年に行われた体格調査の、20歳から59歳までの女子、合計484名の多項目計測値から選んだ23項目である。主成分分析を行って形態的特徴を表す要因を抽出するとともに、それらの要因を代表する項目を選び、10歳ごとの4年齢グループについて年齢的な変化を見た。

結果：すべての年齢グループを一括した主成分分析では、4個の主成分が求められた。それらは、周径を主としたサイズファクター、胸部の太さ・厚みに対する肩部の幅のプロポーション、体幹の丈の前後のプロポーション、肩部の傾斜度である。これらの主成分は、年齢グループごとの主成分分析でもほぼ同様に抽出されることから、体型の個体的特徴を表す主要因と考えることが出来る。しかし年齢を加えた解析では、第3主成分に年齢に関する成分が抽出され、年齢的な体型変化があることが示唆された。そこで、主成分に関連の大きい計測項目などにより、加齢による形の変化をとらえた。